

# 阿波市環境保全型農業推進方針

平成27年4月1日策定

平成31年4月1日改訂

## 1 基本的な考え方

### (1) 地域農業の現状と課題

本市は、徳島県の中央北部の吉野川北岸に位置し、農家数は約3,600戸、耕地面積は約3,700haとなっている。本市農業は、平野部では稲作や野菜等園芸作物、山間部では果樹や畜産等農業の盛んな地域である。

地勢的には、北部の香川県境に連なる阿讃山脈が緑豊かな山々を有しており、これらの山々から南面傾斜に広がる扇状地を利用した、温暖で地味肥沃な土壌を有しています。この地味肥沃な土壌を活かした高品質な農産物を供給する農業地域として県下有数を誇っています。

こうした中で、環境に配慮した適正な施肥や耕畜連携等の環境保全型農業を推進することにより、水系の水質の改善を図っていくことが重要な課題となっている。

また、本市には、持続的な農業の営みを通じて、多様な野生動植物が生息生育する生物多様性が豊かな空間が存在している。このため、今後とも、国民に安全で良質な食料や生物多様性が豊かな自然環境を提供できるよう、生物多様性保全をより重視した農業生産や田園地域・里地里山の保全等を推進する必要がある。

さらに、食料の安全性への国民の関心が高まる中で、これら消費者ニーズに対応した良質な農産物の供給の促進を通じて、地域農産物のさらなるブランド化につなげる必要がある。

### (2) 今後の推進方向

今後は、幅広い農業者の協力を得つつ、エコファーマーや有機農業者の育成、耕畜連携等の環境保全型農業の推進を積極的に進めることにより、環境保全型農業の面的拡大を図るとともに、農業生産活動に伴う環境負荷の軽減を目指す。

併せて、ホタルや渡り鳥などの生きものと共生する農業生産の推進を図る視点で、江の設置や冬期湛水管理などを行いつつ、生物多様性に効果の高い営農活動の導入を図る。

## 2 推進体制及び推進方策

### (1) 推進体制

#### ① 関係機関の協力・助言

本市は関係機関と連携を密に関係機関の助言を得ながら、環境保全型農業を推進することとする。

#### ② 阿波市推進方針の周知

環境保全型農業推進方針を農業者に周知徹底するため、①の関係機関の協力を得て、推進方針についてホームページ等を活用し、農業者に周知徹底する。

## (2) 推進方策

### ① 土づくり・施肥

- ・生育診断に基づく適正な施肥管理
- ・耕種農家と畜産農家との連携による堆肥利用の促進
- ・適正な代かきの指導

### ② 防除

- ・病害虫発生予察情報による適期防除
- ・生物農薬やフェロモン剤、マルチフィルム等の有効利用

### ③ その他

- ・合理的な輪作体系の普及・定着
- ・水田生態系の質的向上につながる冬期湛水管理や有機農業などの実施

## 3 取組目標

- ・エコファーマーの育成  
(H30 198人→H35 250人)
- ・冬期湛水管理 ※  
(H30 1ha→H35 2ha)

※環境保全直接支払交付金に係るもの

参考 H27 : 0.9ha、H28 : 0.9ha、H29 : 1.5ha

## 4 作物別生産体系

別表のとおり

「徳島県持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」に準ずる。

## 5 その他必要な事項

冬期湛水管理については、10月から翌年2月までの連続2か月間以上、沢水やため池からの水の引き込み、地下水などからのポンプアップなど積極的な取水管理と畦塗り等による適切な漏水防止措置、湛水状態の維持に努めるものとする。

また、本方針を周知するための2の(1)の②の情報提供に併せて、冬期湛水管理を実施するにあたっての手法や1の(2)に掲げた本市のホタルや渡り鳥などの生きものの生息状況等について、農業者等に対して周知する。

(別表)

作物別生産体系

作物	技術内容	環境保全に関する効果
水稲	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 稲わら等のすき込み</li><li>・ 堆肥等有機物資材施用技術</li><li>・ 緑肥作物利用技術</li><li>・ 側条施肥技術</li><li>・ 肥効調節型肥料施用技術</li><li>・ 有機質肥料施用技術</li><li>・ 温湯種子消毒技術</li><li>・ 生物農薬利用</li><li>・ 機械除草技術</li><li>・ 除草用動物利用技術</li><li>・ マルチ栽培技術</li><li>・ 発生予察による適期防除</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 化学肥料の削減</li><li>・ 過剰成分の流出抑制</li><li>・ 施肥効率の向上</li><li>・ 農薬散布回数の削減</li></ul>
麦	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 稲わら、麦稈のすき込み</li><li>・ 堆肥等有機物資材施用技術</li><li>・ 緑肥作物利用技術</li><li>・ 肥効調節型肥料施用技術</li><li>・ 有機質肥料施用技術</li><li>・ 機械除草技術</li><li>・ ドリル蒔き栽培</li><li>・ 発生予察による適期防除</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 化学肥料の削減</li><li>・ 過剰成分の流出抑制</li><li>・ 施肥効率の向上</li><li>・ 農薬散布回数の削減</li></ul>
特用作物 (茶)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 堆肥等有機物資材施用技術</li><li>・ 稲わら等畦間マルチ技術</li><li>・ 肥効調節型肥料施用技術</li><li>・ 有機質肥料施用技術</li><li>・ 生物農薬利用</li><li>・ フェロモン剤の利用</li><li>・ 機械除草技術</li><li>・ マルチ栽培技術</li><li>・ 発生予察による適期防除</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 化学肥料の削減</li><li>・ 過剰成分の流出抑制</li><li>・ 施肥効率の向上</li><li>・ 農薬散布回数の削減</li></ul>

作物	技術内容	環境保全に関する効果
野菜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 堆肥等有機物資材施用技術</li> <li>・ 緑肥作物利用技術</li> <li>・ 局所施肥技術</li> <li>・ 肥効調節型肥料施用技術</li> <li>・ 有機質肥料施用技術</li> <li>・ 太陽熱、熱水土壤消毒技術</li> <li>・ 生物農薬の利用技術</li> <li>・ 対抗植物による害虫防除技術</li> <li>・ 被覆資材による害虫防除</li> <li>・ フェロモン剤の利用</li> <li>・ マルチ栽培技術</li> <li>・ 抵抗性品種、台木の利用技術</li> <li>・ 反射資材、粘着資材の利用技術</li> <li>・ 土着天敵の利用技術</li> <li>・ 機械除草技術</li> <li>・ 防蛾等利用技術</li> <li>・ 発生予察による適期防除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 化学肥料の削減</li> <li>・ 過剰成分の流出抑制</li> <li>・ 施肥効率の向上</li> <li>・ 農薬散布回数の削減</li> </ul>
果樹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 堆肥等有機物資材施用技術</li> <li>・ 草生栽培技術</li> <li>・ 緑肥作物利用技術</li> <li>・ 肥効調節型肥料施用技術</li> <li>・ 有機質肥料施用技術</li> <li>・ 機械除草技術</li> <li>・ 抵抗性品種、台木の利用技術</li> <li>・ 生物農薬の利用技術</li> <li>・ フェロモン剤の利用</li> <li>・ マルチ栽培技術</li> <li>・ 防蛾等利用技術</li> <li>・ 被覆資材利用技術</li> <li>・ 発生予察による適期防除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 化学肥料の削減</li> <li>・ 過剰成分の流出抑制</li> <li>・ 施肥効率の向上</li> <li>・ 農薬散布回数の削減</li> </ul>